

<b>1 学校教育目標</b> 未来を切り拓く北っ子 ～共に学び、共に感じ、共に生きる児童の育成～	<b>2 本年度の重点目標</b> ◎学び合う力、つながり合う力、磨き合う生活の育成を図る。 ・教師力、組織力の育成と向上を目指す。 ・保護者・地域との連携・協働を進める。
---	---

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価						
①学び合う力の育成						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
教育活動	●志を高める教育	自分の夢に向かって努力する気持ちを高める教育活動の充実	・集団活動(学級活動・委員会活動・クラブ活動・学校行事)を通して、自分や友達の良さを知り、活動に生かそうとする態度を育てる。 ・計画、実践、振り返りの活動をする中で、自分や集団の課題を見出し、よりよくしようとする態度を育てる。	・全校や学年の集団活動の中で、児童一人一人の良いところを見出す活動を行い、自信を持たせる。 ・活動ごとに振り返りを行うことで、児童が主体的に課題を見出し、次の活動に生かすようにする。	特別活動	長崎
教育活動	●学力の向上	学習規律の定着と学び合う学習集団の形成	・北っ子スタンダードの見直しと周知徹底 ・伝え合う活動を取り入れた授業実践 ・学年に応じた読書量と質の向上	・学期に1回、学年で学習規律の実施状況について振り返りを行い、取り組みが不十分な点を次の指導に活かす。 ・PW・GWを取り入れた授業実践を研究推進員・学力向上推進員を中心に推進する。 ・各学年のお薦めの本を含む月別目標(低10冊・中8冊・高6冊)を達成者数を調べ、全校に知らせることで読書意欲を高める。	学力向上	田中里稲富
		基礎基本の定着と活学力の育成	・4月・12月・2月にCRTや学力テストの分析結果をもとに対策を図る。 ・朝の時間を活用し、国語・算数の基礎・基本の定着を図る。 ・各学年の効果的な宿題の出し方を考える。	・分析結果をもとに、TTや少人数指導を効果的に取り入れ、指導の充実を図る。 ・基礎基本の定着を図るため音読・視写・言語事項・計算などの取り組みを徹底させる。 ・既習事項の定着や活学力を高める宿題の工夫を各学年で出し合い共有する。	指導方改善	野田真細木
学校運営	○教職員の資質向上	校内研究推進と個々の授業力向上	・「自ら考え、共に学ぶ児童の育成」の研究テーマのもと問題解決型の授業実践を全職員で行う。 ・年3回講師を招聘した全体研を開き、授業力の向上を図る。	・年間、算数一単元の授業実践を各学年で計画し、実施する。 ・学年ごとの系統性を見直し、伝え合う活動の充実を図る。 ・算数科の学習に関する児童の意識調査を5月・12月に実施し比較・分析を行う。	校内研究	吉田大家
	○地域・保護者との連携	家庭との連携による学習習慣の定着	・保護者にむけた家庭学習への興味・関心の喚起 ・家庭学習の質・量の向上	・家庭学習の手引き(県・本校)を活用し、各家庭の学習環境を整えるよう啓発を図る。 ・「家庭学習がんばろう週間」を学期に1回実施し、家庭での取り組みの様子を集約する。さらに、結果を紹介することで啓発を図る。	学力Co	田中里稲富
②つながり合う心の育成						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
教育活動	●心の教育	一人一人が認められる居心地のよい学級づくり	・「なかよしアンケート」で「学校が楽しい」と答える児童の割合を90%以上にする。	・「QUテスト」や「なかよしアンケート」を実施し、個に応じた指導を充実させ、児童理解に努める。 ・ケース会議、生徒指導協議会、教育相談部会を行い、対応策を検討し、組織として対応する。	教育相談	鶴田
教育活動	●いじめ問題への対応	人権・同和教育、道徳教育等の充実	・自分も友達も、大切な存在であることを自覚させ、互いに認め合い、助け合う態度を育てる。 ・ケース会議、生徒指導協議会や教育相談部会を行い、対応策を検討し、組織として対応する。	・日常の観察やアンケート実施等により児童の人間関係に気を配り、トラブルの早急な対応・解決、好ましい人間関係づくりを進める。 ・集会活動やたてわり活動を通して児童相互の親睦を深めるとともに、学期に1回「共に生きる」を考える日を設定し、好ましい人間関係づくりを進める。	人権同和生徒指導	松永田中里西森花田
教育活動	○特別支援教育の充実	教員の専門性・意識の向上と個に応じた指導・支援の充実	・発達障害や個別の支援・配慮を要する児童についての理解を深める。 ・個別の支援・配慮を要する児童を把握し、保護者、担任、専門機関と情報交換や連携をとりながら、支援にあたり、現状の改善に努める。	・特別支援学級、通級指導教室について全職員で研修する。専門性の高い外部講師による「発達障害」に関する研修会を行う。 ・支援が必要な児童のケース会議を開き、支援方法等の見当を行うとともに、必要に応じて巡回相談、専門機関との連携を図る。	特別支援教育	佐藤
③磨き合う生活の育成						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
教育活動	●健康・体づくり	望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	・毎日、朝食を食べる児童の割合95%以上を継続する。 ・確実なアレルギー対応を実施する。	・早寝、早起き、朝ごはんの規則正しい生活習慣の定着を図るために、児童に対しては掲示物や委員会活動、家庭に対しては給食便り等を通して、定期的に働きかける。 ・全職員に食物アレルギー対応児童への周知徹底を図り、調理員と確実に実施する。	食育	中野
教育活動	○落ち着いた生活環境づくり	校内ルールの徹底とマナーの育成	・進んであいさつができていないと答える保護者等の割合を85%以上とする。 ・新たな生徒指導の合言葉を覚え、きまりを守って生活する児童数を増やす。	・ルールやマナーを明文化し、生徒指導連絡会において職員が指導内容を共通理解し、統一した指導を行う。挨拶では、オアシス運動の周知徹底を図る。 ・今年度一部変更した生徒指導の合言葉を、生活朝会、学年朝会やクラス掲示等、機会を捉えて説明・指導し、落ち着いた学校生活が送れるようにする。	生徒指導	西森
学校運営	○地域・保護者との連携	家庭との連携による生活習慣の定着	・「北茂安小のやくそく」について、家庭と学校との共通理解を図りながら、児童の安全で安心な生活、望ましい生活習慣づくりを家庭と連携して進めていく。	・学級、学年、学校便り等で、「北茂安小のやくそく(家庭・校外での生活)の中から、必要な項目を絞って重点的に取り上げることで、家庭と学校との共通理解を図り、指導を行っていく。 ・児童が、よくできている点を、集会や放送等で伝え、望ましい生活習慣の促しを行う。	生徒指導	花田原
本年度の重点目標に含まれない共通評価項目(あれば記入)						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
教育活動	○教育の質の向上に向けたICT利活用教育の実施	ICTの積極的かつ有効な授業及び業務への活用	・ICTを利用した授業を受けるのが楽しみだと感じる児童の増加と、ICTを利用する教員の授業や教材作成に関する技能の向上を目指す。	・電子黒板・ほうけんくん(デジタルカメラ)・タブレットPC等の効果的な使用法や、教材作成に関する便利なツールや学習支援ソフト・便利なサイトについて、紹介・研修する場を設定する。 ・ICT教育推進リーダーとICT支援員、ICT担当者が連携しながら、ICT利活用に関する疑問や考えを話し合える雰囲気を作る。	ICT利活用	原大家
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	勤務時間の適正化	・職員個人の毎月の時間外勤務時間を45時間以内にする。	・原則、月～木曜日の施錠時間を19時、金曜日(定時退勤日)の施錠時間を18時にし、週1日「家庭の日」を設定し、17時に退勤するようにする。 ・特定の職員に負担がかかることがないよう、チームで業務にあたる。このことは、学期に1回の校内衛生委員会の中で振り返りを行い、職場環境の改善を図る。		教頭

●は共通評価項目のうち必須項目、○は独自評価項目